

第1学年 国語科学習指導案

指導者 山口 和代

1 単元名 視点を変えて書き換え、作品の続きを書こう

2 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元では、言語活動として「視点を変えて書き換え、作品の続きを書く」ことを位置付けた。作品の続きを書く活動は、物語に書かれている情報を基盤として行うものである。文章の展開を把握し、登場人物の心情や人物像を描写から的確に読み取る必要がある。その手段として書き換えを行う。登場人物の視点を変えて書き換えることで、人物の相互関係に基づいた会話や行動、情景などから登場人物の心情や人物像などを多面的に捉え、想像を膨らませて読むことができると考える。学習の最後に作品の続きを書くという目的意識をもって書き換えを行えば、展開や描写、語り手の視点にも目を向けながら、叙述に即して文章を読むことができるであろう。したがって、本単元でねらう「場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること」(C読むこと)を実現するのにふさわしい言語活動であると考えた。

3 単元について

(1) 生徒観

本学級の生徒は、1学期に、文学的文章「にじの見える橋」を学習した。その際、登場人物の行動や気持ちの変化を捉える能力の育成をねらい、文章の展開に沿って少年の行動描写をまとめる言語活動を行った。その学習において、生徒は、文章の展開を確かめながら登場人物の行動描写に着目する能力を身に付けた。しかし、登場人物の心情や人物像を多面的に捉え、登場人物の気持ちの変化を読み取る力については課題が見られた。叙述に即して文章をよく読み、登場人物の心情を捉え、想像を膨らませて読む言語活動が十分でなかったと考えられる。

(2) 教材観

本教材は、中学1年生が登場人物の物語であり、各登場人物の行動は生徒の日常と重なるものであり、理解しやすいであろう。心情描写にも文学的で優れた表現が見られる。友情を一つのテーマにしているが、結末がありきたりでなく、生徒自身に考える余地が残された表現になっている。「にじの見える橋」で既習した、文章の展開を確かめながら登場人物の行動描写に着目する言語能力を生かし、まずは、場面の展開を適切に押さえられるようにしたい。その後、それぞれの登場人物の描写に着目し、言動や心の動きなどを追っていく活動を行えば、登場人物の心情や人物像を多面的に捉え、想像を膨らませて読むことができると考える。さらに、生徒自身に考える余地が残された結末になっていることから、作品の続きを書く活動も有効であると考える。以上のことから、場面の展開や登場人物の描写に注意して読む能力を育成するのに適した教材であるといえる。

(3) 指導観

本単元では、視点を変えて書き換え、作品の続きを書く言語活動を設定し、場面の展開や登場人物の描写に注意して読む能力を育成する。叙述に即して文章をよく読みることが求められることから、作品の続きを書く活動を学習の最後に設定し、その手立てとして視点を変えて書き換える活動を行う。本単元で行う書き換えは、文章から必要な情報を読み取って整理し、それを基にして書き換える活動である。物語には登場人物が複数存在し、それらが関わり合って話が展開していくことから、登場人物の人物像や心情を読み取ることが必要となる。よって、別の登場人物の視点から書き換えることで、人物の相互関係に基づいた会話や行動、情景などから登場人物の心情や人物像などを多面的に捉え、想像を膨らませて読むができるようにしたい。また、学習の最後に作品の続きを書く活動を設定することで、そのためには読むという明確な目的意識をもたせることができ、場面の展開や登場人物の描写に注意して読む能力を育てていきたい。

4 単元の目標

- 作品の展開や登場人物の描写に興味をもって読み、作品の続きを考えようとする。
(関心・意欲・態度)
- 登場人物の気持ちや行動、場面の展開や描写に注意して読むことができる。
(読むこと)

- 文脈の中で使われている語句の意味を捉え、表現の工夫を味わうことができる。
 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・作品の展開や登場人物の描写に興味をもって読み、作品の続きを読むようとしている。	・登場人物の気持ちや行動、場面の展開や描写に注意して読んでいる。	・文脈の中で使われている語句の意味を捉え、表現の工夫を味わっている。

6 単元の指導計画（6時間扱い）

次	時	主な学習活動	主な評価
一	1	作品を通読し、感想を基にして作品の続きを読むようとしている。	・登場人物の心情を想像して、作品がどう続いているかを考えようとしている。 (関心・意欲・態度)
	2	場面の展開や描写に着目し、作品を4つのまとまりに分ける。	・時間、場所、出来事などに着目しながら読み、作品を4つのまとまりに分けている。 (読む能力)
	3	行動や情景描写などから、「私」の心情の変化をまとめること。	・行動や情景描写などから、「私」の心情の変化を読み取っている。 (読む能力) ・心情や情景を表す語句や表現の工夫を捉えている。 (言語についての知識・理解・技能)
二	4 (本時)	「夏実」「戸部君」の視点から作品を書き換える。	・人物の相互関係に基づいた会話や行動、情景などから登場人物の心情や人物像などを多面的に捉え、想像を膨らませて読んでいる。 (読む能力)
	5	書き換えたことを基に、視点を決めて作品の続きを読むようとしている。	・書き換えたことを基に、視点を決めて、登場人物の心情を想像しながら作品の続きを読むようとしている。 (関心・意欲・態度)
三	6	原作の世界との整合性がとれているか確認しながら、作品の続きを読むようとしている。	・原作の世界との整合性がとれているか確認しながら読んでいる。 (読む能力)

7 本時の学習

(1)目標

「夏実」「戸部君」の視点から作品を書き換えることを通じて、人物の相互関係に基づいた会話や行動、情景などから登場人物の心情や人物像などを多面的に捉え、想像を膨らませて読むことができる。

(2)準備・資料

ワークシート 実物投影機 プロジェクタ スクリーン

(3)展開

学習活動・内容	指導上の留意点・評価
1 本時の学習課題をつかむ。 「夏実」「戸部君」の視点から作品を書き換えよう。	・学習活動のつながりを確認し、単元全体での本時の位置付けを確認する。 ・前時に読み取った「私」の心情の変化について確認し、そのことをさらに深めるための学習であることを説明し、目的意識を高める。
2 書き換えの方法を確認する。 【方法】	・本時の学習活動は、元の作品の理解をより深めるための活動であり、文章から必要な情報

	<ul style="list-style-type: none"> ・別の人（視点）から見て書き換える。 ・場面の展開や登場人物の描写を基にして書く。 ・人物像や心情を表す言葉を適切な言葉に置き換える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み取って整理し、それを基にして書き換えるように話す。 ・書き換える例を示すことで、その後の活動が円滑に行えるようにする。
3 登場人物の視点を変えて書き換える。 ・「夏実」	<p>彼女が私に声をかけてきたのと、隣のクラスの子が私に話しかけてきたのが同時にだった。私は一瞬戸惑ったが、隣の子と話ながら彼女から顔を背けた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各自が書いた作品を後で読み合うことを確認する。 ・相談はせず、個人で書くよう指示する。 ・書く活動が滞っている生徒には、机間指導をしながら個別に助言する。 ・活動時間を明示し、見通しをもって活動できるようにする。
	<p>・「戸部君」</p> <p>てのひらに水を受けて何度もほおをたたいている彼女に、おれは近づいた。おれは後ろから「おい。」と声をかけてみた</p>	
4 作品をグループで読み合う。 (1) グループでワークシートを交換し、作品を読み合う。 (2) 互いの作品のよくできている点、改善点について話し合う。 【評価の観点】 ・主語は適切か。 ・場面の展開や登場人物の描写を基にして書いているか。 ・人物像や心情を表す言葉を適切な言葉に置き換えているか。 (3) グループの代表者が学級全体で発表する。 5 本時の学習を振り返る。 ・視点を変えて書き換えた感想を話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ箇所を書き換えているので、より適切な表現をグループで検討するよう話す。 ・参考になる作品があれば、自分の書いたものを訂正してもよいことを伝える。 ・改善点については、どのように改善すればよいか具体的に助言する。 ・机間指導の際に生徒の作品を評価し、適切に書き換えられている生徒を指名する。 <p>②人物の相互関係に基づいた会話や行動 情景などから登場人物の心情や人物像などを多面的に捉え、想像を膨らませて 読んでいる。（読　観察・ワークシート）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・視点を変えて書き換えることで、それまで読み取れていなかったものが見えたか確認する。 ・書き換えることで、想像を膨らませて読む力を高めるとともに、書くために必要な表現にも目を向けることができたことを伝える。 ・次時は、書き換えたことを基に視点を決めて作品の続きを書くことを話し、学習意欲を高める。